

訓練カリキュラム

訓練実施機関名： 特定非営利活動法人 北海道ふるさと回帰支援センター

訓練の種類	基礎コース <input checked="" type="checkbox"/> 実践コース(06農業分野)	想定する就職先の職務・仕事 (※基礎コースの場合は記載不要)		
訓練科名	農業(野菜栽培)実践科 ※40文字以内で記入してください。	農業生産法人などで、ビニールハウスや露地での野菜栽培及び管理・経営に係る農業従事者。		
募集期間(予定)	平成24年5月29日 ~ 平成24年6月27日			
選考日(予定)	平成 24 年 7 月 3 日			
選考方法	<input checked="" type="checkbox"/> 面接 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 其他()			
選考結果通知日	平成 24 年 7 月 6 日			
訓練期間	平成24年7月23日 ~ 平成24年12月20日 (5 か月) (訓練日数 98 日)			
訓練時間	9 時 0 分 ~ 15 時 50 分	訓練定員	30 名	
訓練対象者の条件	特になし			
訓練推奨者 (特定の者を想定する場合のみ)	<input type="checkbox"/> 新規学校卒業者 <input type="checkbox"/> ニート等の若者 <input type="checkbox"/> 障害者 <input type="checkbox"/> 母子家庭の母等 <input type="checkbox"/> 被災者 <input type="checkbox"/> 外国人 其他()			
訓練目標 (仕上がり像)	野菜栽培等の基礎知識を学科で学び、ビニールハウスや露地での野菜栽培方法を実技で取得。併せて農作物の流通や経営管理を学び、札幌近郊や道内各地の農業生産法人などで即戦力として活躍できる人材を養成			
訓練修了後に取得できる資格	名称(日本農業技術検定 3級) 認定機関(日本農業技術検定協会) <input checked="" type="checkbox"/> 任意受験 名称() 認定機関() <input type="checkbox"/> 任意受験 名称() 認定機関() <input type="checkbox"/> 任意受験			
訓練内容	科目	科目の内容	訓練時間	
	学 科	入所式、ガイダンス、修了式	入所式(オリエンテーション)(3h)、修了式(2h)	
		安全衛生	農作業と安全衛生	2時間
		職業能力基礎講習	自己理解、職業意識、表現スキル、人間関係スキル等	32時間
		農業基礎	作物栽培基礎、土壌と養分、病害虫、農業機械概論	50時間
		農業実務	資材管理、営業販売、出荷管理、会計処理、情報処理、財務管理、作付計画	76時間
	農業経営	消費者動向と流通、収支計画、経営管理	40時間	
	実 技	栽培管理(露地)	播種から定植、間引き、灌水・施肥、収穫、圃場整備	98時間
		栽培管理(ハウス)	ハウス管理、播種から定植、灌水・施肥、収穫、圃場整備	94時間
		栽培管理(収穫、出荷管理)	収穫、出荷調整加工、出荷	74時間
設備・機械管理		機械器具の整備・栽培後の片づけ	20時間	
<input checked="" type="checkbox"/> 職場体験 <input checked="" type="checkbox"/> 職場見学	<input checked="" type="checkbox"/> 職業人講話 其他	職場見学: 壮瞥町大作農園(6時間)、仁木町佐藤農場(6時間) 職業人講話: 石狩農業改良普及センター、菅原農場主(6時間)	18時間	
企業実習	<input checked="" type="checkbox"/> 実施しない <input type="checkbox"/> 実施する	※実施する場合、カリキュラムは別途作成し、総時間のみ記入してください。		
訓練時間総合計	504時間	学科 200時間 実技 286時間 職場体験等 18時間		
受講者の負担する費用	教科書代 1,500 円 其他(職場見学交通費) 1,000 円	合計	2500円	
指導方法	訓練形態(個別指導・補講を除く)	<input checked="" type="checkbox"/> 全ての受講者を一堂に集め、講師が直接指導する		
	施設設備や教材等を有効に活用した効果的な指導のための工夫	地域で長く農業を営む住民により構成される町内会直属の集会所を訓練施設とすることにより、農政、農業委員会、農協等関係者との交流を常時可能とし、農業関連での求人情報にもタイムリーに得られる環境にある		
	受講者ごとの特質及び習得状況に応じた指導のための工夫	少人数班体制と各班専属の実習指導員を常時配置することにより、訓練生ごとの知識レベル及び習得状況に応じた訓練環境による実技指導を可能とする		